建設新聞社提供

建設新聞

２０２６年（令和８年）１０月２２日（木曜日）（５）

青森県 八工大生10人が参加 i―Con新技術体験学習会



青森県は20日、八戸市の八戸工業大学で「i―Construction新技術体験学習会」を開催した。

この学習会は、建設業の次世代を担う若手技術者の育成を目的に、DXやMRなど建設分野の新しい技術を体験してもらうため、年に複数回行っているもの。東北整備局青森河川国道事務所の協力を得て実施した。

当日は同大学の建築・土木工学コースのほか、機械工学コース、システム情報工学コースの学生10人が参加。体験会では、スマートフォン用アプリによる3次元点群データの作成、橋梁上部工工事とドローン空撮映像をそれぞれ用いたVR体験、橋梁鉄筋のMR体験、遠隔臨場体験の5種類を実施した。学生は1グループ3～4人に分かれ、15分ごとに各ブースを回り、担当者に質問しながら新技術への理解を深めた。

開催に当たり、東北地方整備局の工藤学工事品質管理官があいさつし、「建設業界は働き方改革を進めている。地域の課題解決と建設業のイメージを一新するため、DX技術を推進していく」と現状を紹介した上で、「今回の体験でその一端に触れ、将来へのイメージをわかせてほしい」と呼びかけた。

参加した学生は、「ドローンでしか立ち入ることのできない場所を、まるで肉眼で見ているかのように映像で確認できたことが印象に残った」「MRを初めて体験し、技術が進化していることに驚いた」「今回の体験会を通じ、建設業界に興味を持った」などと感想を述べていた。

※この記事・写真等は、建設新聞社の承諾を得て掲載しています。